2023 07 Summer

認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン

CNJ Speakers

Know（≠No）More Cancer　私たちは、もっと伝えたい

No. 28

がんの性生活への影響も他の有害事象と同じように抵抗感少なく相談できる社会へ
CNJ News ／ CNJ Report
2022 年度活動報告・サポーターリスト
海外がん医療 TOPICS

がんの性生活への影響も他の有害事象と同じように抵抗感少なく相談できる社会へ

昭和大学保健医療学部
教授
渡邊 知映

キャンサーネットジャパン
「がんと性」事業
プロジェクトマネージャー
池田 明香

キャンサーネットジャパンでは、2020年3月から3年間、がん患者の性生活（セクシュアリティ）～心と体に及ぼす性的側面のサポート～事業を展開しました。これまで情報や支援が少なかったがん患者の性や恋愛について、情報を盛り込んだ冊子やWEBサイトの作成、イベントの開催が実現できたのは、長年、AYA世代のがん患者の性の問題の支援と研究、情報発信を行ってきた渡邊知映さんの全面協力があったからです。

今回は、この事業のプロジェクトマネージャーを務めた池田明香が、改めて、渡邊さんに、がんと性の問題に取り組んだ経緯や医療機関での支援の現状と課題などについてうかがいました。

実体験からがんの患者とパートナーの性の問題への支援に必要性を実感

池田　最初に、渡邊さんが、「がんと性」のことに関心を持ったきっかけを教えてください。

渡邊　夫が34歳のとき白血病を発症したのですが、彼が治療中だったときに結婚し、いろいろな経緯を経て妊娠・出産し、娘を授かりました。

妊娠に気づいたとき、もし、夫に何かあった時に私は1人で子どもを育てられるのか、夫が厳しい状況なのに新しい家族を作っても良いのか、無責任な家族のあり方だと言われるのではないかなどと思って、妊娠した事実を夫にでさえ、すぐには伝えられませんでした。夫は強力な抗がん剤治療を受けていましたから、胎児への影響も心配でした。私が不安な気持ちになっていること自体、夫が白血病から元気になっていることへの否定につながるのではないかなどと自分を責め、悶々としました。

その後、大学院での恩師である高橋都先生（NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事）との出会いをきっかけに、がんと性の問題の支援活動と研究に取り組みました。看護師の私でもがん患者のパートナーとして、新しく家族を作ることに対してこれだけ悩んだのだから、医療者ではない患者さんとそのパートナーはもっと不安だろうと考えたからです。

池田　渡邊さん自身の体験から、がん患者の性や生殖の問題へのサポートが必要だと実感されたのですね。

渡邊　そうです。私たち医療者は、がん患者さんのパートナーをキーパーソンと呼んだりして、患者さんを支える立場の人と位置づけることが多いのですが、実は、パートナーも不安や苦しい思いを抱えている当事者で、サポートが必要な存在ですよね。がん患者のパートナーになって初めて、これまで看護師として患者さんのその後の人生を想像できていなかったのではないかと反省しました。

「がんと性」に悩む当事者の声を多く発信できたのがこの事業の大きな収穫

池田　休眠預金等を活用した助成金の申請前に、「がんと性に関する情報発信をテーマにしたい」と渡邊さんに相談しました。そのときどんなふうに思われましたか。

渡邊　AYA世代の妊孕性温存に関しては相談支援体制や情報が充実してきましたが、妊娠するその手前の性や恋愛の問題に関しては、日本ではまだ情報やサポートが少ない状況です。ですから、がんと性をテーマに患者支援団体のCNJが取り組むと聞いて、とても心強く思いました。

　私は、がんの患者さんの性の問題の支援と研究に取り組んでいた高橋都先生と一緒に、がんと性を考える研究会を10年ぐらいしていたのですが、まだ、医療者の意識を変えなければというところにとどまっていました。患者さんやそのパートナーに向けた情報発信は大きな課題でしたので、休眠預金等による事業でそれが実現できたらいいなあと考えました。

　2008年に、抗がん剤治療の性や生殖への影響をまとめた小冊子「化学療法を受ける大切なあなたへ　そしてあなたの大切な人へ」を作ったのですが、その情報を更新したいという思いもありました。

池田　がんと性について、小冊子「もっと知ってほしい　がんと性にまつわること」やウェブサイトでの情報発信、個別相談ができるアプリの作成、セミナー、ワークショップなどに取り組みましたが、どれが最も効果があったと思いますか。

渡邊　小冊子に体験談を盛り込んだり、当事者の座談会で、性生活や恋愛への影響について本音で語り合ってもらえたりしたのはとても良かったと思います。性生活には影響もない人もいるし、自分の中でそこは蓋をしておきたいという人ももちろんいると思います。それでも、あえて「がんと性」をテーマにした座談会の中で、当事者として顔を出して自分の体験を話してくださったことに勇気をもらったという声も寄せられていました。自分だけではないと励まされた人も多かったのではないでしょうか。

　また、性の問題は個別性が高いので、アプリを使った個別相談の試みは良かったと思いますし、今後も続けたいです。

池田 明香（いけだ あきこ）

NPO 法人キャンサーネットジャパン 看護師・プロジェクトマネージャー

2004 年 29 歳で多発性骨髄腫を発症し、2008 年 4 月に臍帯血移植。2006 年に地元横浜で「はまっこ（多発性骨髄腫患者・家族の交流会）」を発足させ交流会や医療講演会を開催している。また、虎の門病院の院内患者・家族のおしゃべり会「ちゃとら Club」の世話人としても活動。2017 年 11 月より現職。主に、血液がん、「がんと性」事業のプロジェクトを担当している。

渡邊 知映（わたなべ ちえ）

昭和大学保健医療学部 教授

東京大学大学院医学系研究科博士後期課程修了（保健学博士）。日本赤十字社医療センター看護師、上智大学看護学科准教授などを経て、2020 年 4 月より現職。日本がん看護学会理事、日本がん・生殖医療学会理事、日本乳癌学会特任理事、第 5 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会大会長を務める。若年乳がん患者コミュニティスタイル世話人。専門はがん看護学。若年女性がん患者の性・生殖に関する支援、情報発信、研究に取り組んでいる。

性の問題に関する相談支援体制の充実や医療者のスティグマをなくすことが課題

池田　がんと性の問題について、医療機関での相談体制は整ってきているのでしょうか。

渡邊　数年前に比べれば、がんや治療による性生活への影響について情報提供を行う機会は増えてきているとは思います。ただ、全てのがん医療に関わる看護師や相談支援センターの相談員が、性の問題の相談に乗れるかというと、まだまだと言わざるを得ません。

　でも、がんの患者さんやそのパートナーには、性への影響に関しても、吐き気や脱毛などの有害事象と同じように、主治医や看護師などに相談していいことを知っておいていただきたいですし、医療者としては適切な情報を提供する必要があると考えています。そもそも、がんを経験しても、誰かを好きになるとかその人と触れ合っていたいという気持ちになるのは自然なことですよね。それが、がんの進行や治療によって影響を受けるのであれば、性や恋愛の問題を当たり前のように医療者が相談に乗ってもよいのではないでしょうか。

池田　「がんと性」についての座談会に参加した当事者の方からは、自分の性の悩みについて話せたことで、気持ちが楽になったという声も聞かれました。

渡邊　この問題をタブー視せずに話したり、医療者や患者仲間に聞いてもらえたりする体験が大事なのではないでしょうか。妊孕性と、性や恋愛の話は別なのに、子どもを産むことが困難になった患者さんを目の前にしたときに、性生活や恋愛を話題にしてはいけないと思うなど、スティグマ（烙印・差別）を医療者や周囲の人が勝手に作っている部分もある気がしています。がん患者に対する医療者や周囲の人のスティグマをなくすことが課題です。

　そして、がんと性の問題には単にセックスだけではなく、恋愛、パートナーとのコミュニケーション、スキンシップも含みます。この問題に不安や悩みを抱えているのはがんの患者さんとそのパートナーの一部かもしれませんが、情報が欲しい人に正しい情報を届け、悩んでいる人を支援したり傷つけないように配慮したりすることが大切です。

池田　今後取り組んでいきたいことはありますか。

渡邊　アプリでの相談も含めて、がんと性の問題について、ワンストップで相談につながるような方法を模索していきたいと考えています。まだ構想段階ですが、昭和大学病院でも産婦人科や泌尿器科の医師らと連携して、性の問題の相談にも対応していけたらと思います。

　一方で、もしかしたら、性の問題って人には言いづらいから、気持ちの整理や情報を得るためにオンラインツールを活用できたりするかもしれません。ICT（情報通信技術）を活用した支援も考えていきたいです。

池田　CNJとして「がん患者の性生活（セクシュアリティ）」に関する事業を3年間続けてきて、患者さんのセクシュアリティな問題に対する支援が必要だという視点は、ピアサポーターや医療者も少しずつ持てるようになってきたように思います。さらに、がん相談支援センターや外来化学療法室、ピアサポートの中でも、性の話や相談ができる環境が整っていくことを期待しています。

　医療者向けのワークショップは特にニーズが高く、もう1回開催してほしいという声をたくさんいただいたので、また開催する機会を作れればと思います。ぜひ、今後もご協力をお願いします。

渡邊　もちろんです。患者さんやそのパートナー、そして医療者向けのセミナーやワークショップはぜひ続けられるといいですね。

文／福島安紀
撮影／清原明音

AMGEN

To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを

アムジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、以来、探求を重ねてきました。40年を経た現在、アムジェンは世界最大規模の独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、神経疾患の領域に重点を置き、アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

アムジェン株式会社の詳細につきましてはこちらをご覧ください

2023年3月 CA230015SH1

医療者向けに「がんと性」啓発

1月21日「もっと話そうがんと性（セクシュアリティ）のこと」開催

がんの進行や治療は、性機能や生殖機能に影響を与えることがあります。しかし、患者・パートナーのみならず医療者からも話しづらいテーマの一つです。医療者としての知識と理解を深め今日から何ができるのか、ともに考え、学ぶ機会として開催しました。ハイブリッド形式で開催し、会場参加10名、オンライン参加181名、合計191名の方にご参加いただきました。

基礎的な内容のほか、経験者の話を聞いたり、パネルディスカッションをしたりしました。参加者からは「これまで治療が安全安楽に進んでいくことばかりに意識が向かっていた事に気づいた」「心が震えて泣きました」「必要と思いながらもなかなか行動に移せなかった」などさまざまな感想が聞かれました。アーカイブは医療者限定で公開中。

上：左より柿本聡さん、原千晶さん、渡邊知映先生、山岸元基先生

◀アーカイブ動画視聴申込フォーム（医療者限定）

https://www.cancernet.jp/sexuality2023

3月25日「患者に学ぶがんと性」開催

「がんと性」の支援を実際にどのようにしていくか。がん医療の現場で働く医療者を対象に患者さんの協力も得てワークショップイベントを開催し20名の医療者が参加しました。4～6名の参加者と患者さん、ファシリテーターを1グループとし、患者さんの声に耳を傾け、病院や職種を超えて問題や課題を共有し、それぞれの立場で何から始めていくのかを検討。最後には全体発表で理解を深めるとともに、任意参加のフリートークの時間も設けました。繊細なテーマを扱う緊張感から解放されて、最も充実した時間となったグループも。継続開催を望む声が多く聞かれました。

学術集会にて活動報告を発表

2023年5月13日（土）・14日（日）に第5回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会が開催されました。医療従事者や患者支援をされている参加者に小冊子を提供したほか、ポスターで「がん患者・パートナーへのセクシュアリティ支援」の取り組みを発表し最優秀演題賞を受賞しました。事業にあたりご支援・ご協力を頂いた医療従事者のみなさまや、アンケートやインタビュー、講演などでご協力いただいたみなさまに、改めて御礼申し上げます。

文／池田

JSMO2023 シンポジウムで発表

3月16日より福岡県で開催された、第20回日本臨床腫瘍学会学術集会（JSMO2023）にて、会長企画シンポジウム01「経済毒性の現状と今後」、そして会長企画シンポジウム04「患者支援者の教育研修：我が国における現状と課題」のセッションへ、理事の古賀真美が登壇しました。

経済毒性については、昨夏に「がん患者における経済毒性」をテーマに広くアンケートを取った結果を患者支援者の視点から意見を交えて発表し、患者支援者の教育研修については、演題「キャンサーネットジャパンにおける教育事業（ナビゲーター・コーディネーター）」として、当方の教育事業として2007年より継続して実施している「乳がん体験者コーディネーター養成講座」、2015年に開講した「がん情報ナビゲーター養成講座」、そして2016年から実施している「CNJがんナビゲーター認定試験」について、目的や具体的な内容、受講者の感想や今後の課題も含め、発表させていただきました。

文／古賀

経済毒性の発表については、日経メディカルオンラインの記事に取り上げていただきました。

https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/search/cancer/report/202304/579233.html

ヤンセンが目指すのは、
病が過去のものになる未来を作ることです。

世界のすべてが、私たちの研究室。病と懸命に闘う患者さんのために、高い科学技術、
独創的な知性、世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。
すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にこそ挑んでいく。
新しい薬を創るだけではなく、それを最適な方法で提供する。
革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちを待つ人がいる限り。
誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。
そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社
www.janssen.com/japan
www.facebook.com/JanssenJapan

Janssen
PHARMACEUTICAL COMPANIES OF
Johnson&Johnson

がん患者の性生活（セクシュアリティ）～心と体に及ぼす性的側面のサポート～活動報告

NPO法人キャンサーネットジャパンは日本対がん協会の協力による休眠預金活用事業として助成金を活用し、2020年3月から2022年度の3年間、がん患者の性生活（セクシュアリティ）～心と体に及ぼす性的側面のサポート～事業を実施いたしました。

助成金申請の背景

近年、働く世代のがん患者への就労支援を含めた社会的支援は重点的に取り組まれる一方、患者の治療に伴う変化が性（セクシュアリティ）へ及ぼす影響に関する情報は圧倒的に少なく、変わらない状況が続いていました。中長期的なアウトカムを達成するためには、事業を管理し、安定的に継続するための必要経費の確保も必須であり、公益財団法人日本対がん協会が休眠預金等活用法に基づく資金分配団体として募集していた実行団体として応募し、採択されました。

安心して性について語り合える社会のために

(1)国内で情報が乏しい性（セクシュアリティ）の問題を、がん患者やそのパートナーに向けて、WEB・冊子・動画を活用して専門家監修のもと広く情報発信する。(2)センシティブな内容に対して、対面相談のハードルを下げ、専門家（婦人科医、泌尿器科医、看護師、セックスカウンセラー等）に相談出来る仕組みを構築する。これらを事業の柱とし、さまざまなシーンでがん治療に伴う性生活へのサポートが当たり前のように行われ、がんになっても一人の人間として当たり前に生きていける社会を目指して取り組みました。

WEBサイト「がんと性」

2021年3月、CNJが運営するウェブサイト「もっと知ってほしいがんと生活のこと」に「がんと性」を公開。以降、さまざまなカテゴリの記事（60本）、インタビューや講演動画（12本）、体験談（7本）を掲載するほか、FAQやイベントの情報などさまざまな情報を整備しました。現在までに関連するウェブサイトのページビュー数は46万回を超えています。

https://www.cancernet.jp/seikatsu/sexuality/

小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」

医療現場で患者・パートナー支援に活用できる小冊子を制作し、全国4千箇所へ送付したほか、医療機関への無償提供を実施中。患者・パートナーの経験談を多く盛り込んでいます。医療者から話をするきっかけにも活用されています。

https://www.cancernet.jp/cands

「がんと性」の相談を気軽にアプリで

セキュリティと匿名性を担保したアプリケーションを用いて、ニックネームで専門医に相談できる仕組みを構築しました。しかし、登録のハードルや利便性の問題で、利用者数は伸び悩みました。また、実際の相談内容も、専門医へつなぐ必要性のある内容は寄せられず、アドバイスやウェブサイト内の情報提供にとどまっており、まだ多くの患者・パートナーが声を上げる前の段階にあるとも評価されました。

啓発の為の試行錯誤

情報を整備しても、「がん患者なんだから仕方がない」「性の悩みなんて贅沢」と自分ごと化できていなければ、必要な患者・パートナーへは届かない。アンケート結果からも相談できない悩みを抱えている方が一定数いることを把握しており、患者・パートナーに限らず、自らが大切にしていることへの気づきは、人生の豊かさにつながる。そう考えた私たちは、プロボノの協力を得てアニメーション啓発動画「したい？する？～がんとセックス～」がんサバイバーのアヤカと恋人のユウキの、がんとセックスをめぐるお話を制作。JCFほか主催するイベントのCM動画として流しています。動画はYouTubeで公開中。病院の待合室などでサイネージとして活用できるよう字幕入りバージョンも用意しています。

字幕ありの動画を視聴する

https://youtu.be/1meL7oJCotQ

少しずつ変化する社会を実感

事業開始時にニーズ調査を実施し、開催するイベントの際にはアンケート回答を得ることで、具体的な事業の決定や修正の際には対象者のニーズを反映させながら進めました。

がんやがん治療に伴う性に関することで困っていること・不安なことをだれにも相談できなかった割合は事業開始前には53・77％と過半数を超えていましたが、評価のためのアンケート結果からは37・68％へと減少、相談できずにいる患者・パートナーへ支援体制としては一定数の効果があったとして評価できました（表1）。

【表1】Q がんやがん治療に伴なう性に関することで困っていること・不安なことを誰かに相談することはできましたか？

※複数回答可	2021年1月		2022年12月	
パートナーに相談した	26.89%	82	30.43%	42
友人・知人・患者経験者に相談した	10.82%	35	18.12%	25
主治医に相談した	4.59%	14	22.46%	31
主治医以外の医師・医療従事者に相談した	6.89%	21	11.59%	16
相談できなかった	53.77%	164	37.68%	52
その他	12.13%	37	14.49%	20
その他（具体的に）		82		19
	Answered	305	Answered	138

また、がん患者の性に関すること、性生活や性機能への問題に関する情報や支援の充足度についても不十分だと感じる割合が41・81％→34・06％へと改善、全体的に支援体制の充足度を実感できている傾向がみられました（表2）。

【表2】Q がん患者の性に関すること、性生活や性機能への問題について、情報や支援は十分にあると思いますか？

※複数回答可	2021年1月		2022年12月	
十分だと感じる	1.22%	5	1.45%	2
どちらかと言えば十分である	8.07%	33	11.59%	16
どちらかと言えば不足している	48.90%	200	52.90%	73
不十分だと感じる	41.81%	171	34.06%	47
	Answered	409	Answered	138

情報を誰から得たい？という問いに最も多い回答は「がん経験者(45.2%)」。「泌尿器科や婦人科など性に関する専門医・専門家(43.8%)」「看護師(32.2%)」が続きました。

※複数回答可

波及効果

事業開始前、「がんと性」をテーマに単発のイベントやコンテンツの一つとして取り上げる機会はなく、患者支援団体や医療機関等においても「がんと性」をテーマとして扱う機会はほとんど見られませんでした。しかし、2021年には国立研究開発法人国立がん研究センターが運営するがん情報サービス内に「がんやがんの治療による性生活への影響」の項が追加されたほか、徐々に「がんと性」をテーマにした講演会などが開催されるようになってきています。

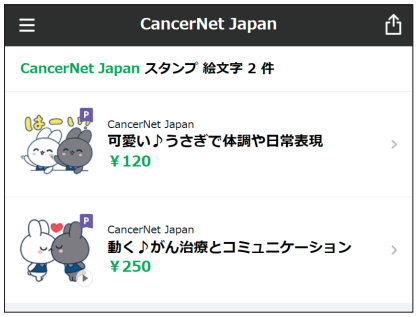
知ること・話すことの大切さ

これまでほとんど取り上げられることのない「がんと性」をテーマにしたため、特に当事者の話を聞く、話をしてもらう際には、どこまでの配慮が必要なのか、あるいは過剰なのか、悩みながら進める部分もありました。しかし、協力者からは「がんと性」に苦しんでいたことを「やっと話せる時代が来た！」と話したり、あまり自分は「性」に積極的ではないから、と消極的ながらも講演し、話をする中で抑え込んでいた感情に気づき涙を流しながら語る、という場面がみられたり。事業を通してご協力いただいた当事者からは「サバイバー当事者として話す機会をいただけたことが大変うれしく、長年の苦しみを吐き出すことができ、がんと性の問題への転換期になったと思います。」とのコメントも得られました。

また、ウェブサイトや小冊子などを利用する立場の方からも「自分だけが悩んでいることでないことがわかり、医師に相談しやすくなった。」「小冊子を読んで、それぞれのカップルでそれぞれの方法があることを知り、ホッとしました。だから、悩みませんでした。」などの声が聞かれました。

LINEスタンプも人気

本事業をきっかけに誕生したCNJの公式キャラクター「キャンとウィル」。LINEスタンプは、パートナーとのコミュニケーションを後押しするだけでなく、闘病中や普段使いにも可愛くて使いやすい！と大好評です。



https://store.line.me/stickershop/author/2143969/ja

文／池田

謝辞
本事業は総監修の渡邊知映先生（昭和大学保健医療学部教授）をはじめ、監修の菊地栄次先生（聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科学教授）、湯村寧先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター生殖医療センター泌尿器科）、大川玲子先生（鎮誠会千葉きぼーるクリニック）、宇津木久仁子先生（（公財）がん研究会有明病院健診センター・婦人科・リンパケア室）、その他多くの患者さんやパートナーの皆様、先生方にご協力を頂きました。御礼申し上げます。

血液がんフォーラム2023 11月18日（土）-19日（日） 開催決定

血液がんフォーラムは、血液がんの患者さんやご家族、一般の人に広くお届けする日本最大規模のフォーラムです。初めて参加される方にもわかりやすく、治療後の経過が長い患者さんにとっても有益な情報を届けることを念頭に置いて、プログラムを構成しており、医療従事者の参加も非常に多いのが特徴です。

会場に集まって開催したい思いがある一方で、血液がんの患者さんは入院期間も長く、退院後も安心して外出できるタイミングが少ないこともあり、入院中の病室を含め、どこからでも参加可能なオンラインで今回も開催いたします。昨年に引き続き、全国で血液がんの患者さんやご家族を支援する患者会の活動や交流会の情報を集約してお届けしますので、是非、夏を過ぎたら順次公開する情報を確認してください。

文／池田

詳細は、決定次第こちらに掲載します

https://www.bloodcancerforum.jp/

血液がん 知っとかナイト 9月から開催決定

血液がんに関する疾患解説だけでは消化しきれない！「集う」にも重きを置いた血液がん患者さんやご家族のためのイベント「知っとかナイト」を9月から毎月テーマを決めて開催します。講演会やセミナーよりも少し近い距離で、学んだり、話したり、モヤモヤを解決したりする企画です。

情報が届きにくいテーマや個別性が高いテーマを取り上げて、一緒に学びましょう。開催日や参加募集はイベントページで順次ご案内します。

文／池田

開催月	コンテンツ	座長・演者・演題等
9月	多発性骨髄腫のこと　知っとかナイト①	三輪 哲義 先生
10月	多発性骨髄腫のこと　知っとかナイト②	三輪 哲義 先生
12月	移植治療のこと　知っとかナイト	多田 雄真 先生
1月	障害年金のこと　知っとかナイト	勝俣 範之 先生 宇代 謙治 先生
2月	SDMのこと　知っとかナイト①	平原 憲道 先生
3月	SDMのこと　知っとかナイト②	平原 憲道 先生

詳細は、決定次第こちらに掲載します

https://www.cancernet.jp/night2023

第13回男性乳がんの交流会 開催

3月11日（土）第13回男性乳がんの交流会『メンズBC』を開催しました。

今回は初めて、会場（東京ウィメンズプラザ）とオンラインのハイブリッドで開催しました。

会場には患者さん、ご家族含め7名と特別ゲストとして沢田晃暢先生（NTT東日本関東病院 乳腺外科部長）が参加され、4名がオンラインで参加されました。オンライン参加の方のなかには海外旅行先から参加された方もいらっしゃいました。CNJ認定乳がん体験者コーディネーターの大友明子さんの進行で、最初に沢田先生からのミニレクチャーがあり、そのあとは自己紹介に質問タイムなど、さまざまな話題がとりあげられましたが、なかでも遺伝子検査の話や、乳がん治療は長い期間続くことから、治療の止めどきについての話題は多くの患者さんが関心を寄せていました。

文／藤原

次回開催は9月9日を予定しています。詳細は決定次第こちらからご案内します

https://mens-bc.amebaownd.com/

Importance of the Doctor/Patient Relationship
日米の視点から見る患者と医師の関係 PART2 開催報告

米国NYを拠点とする乳がん、婦人科がんのサポートグループSHARE主催の医療従事者、患者アドボケート対象「Importance of the Doctor/Patient Relationship 日米の視点から見る患者と医師の関係 PART2」が1月29日にオンラインで行われ、CNJも運営に協力しました。当日は191名の方にご視聴いただきました。

2021年12月開催の「日米の視点から見る患者と医療者の関係 PART1」では、アメリカの医療現場で働く医療者たちに話をうかがいましたが、その続編となる今回は、日本で働く医療者、患者アドボケートも加わり、「患者の尊厳、家族の理解、医療者の介入」をテーマにオンラインでディスカッションを行いました。

まず、2022年秋に日本で公開されたフランス映画「愛する人に伝える言葉」に出演されたガブリエル・サラ医師をスペシャルゲストとして迎え、患者とコミュニケーションするうえで大切にしていることについてのインタビュー動画を視聴し、続けて、アメリカでの乳がん患者、ケアギバーへのインタビュー動画を視聴したのち、ディスカッションが行われました。

ガブリエル・サラ先生へのインタビュー

ディスカッションの様子
左上から：河面育子さん、永井都穂美さん、佐々木治一郎先生
左下から：清水佐紀さん、白井敬祐先生、仲本典明さん

ディスカッションでは、キャタリストとして、米国在住チームの婦人科がん経験者である清水さん、白井医師、河面看護師、日本在住チームの佐々木医師、乳がん経験者／看護師の永井さん、ケアギバーの仲本さんが登壇し、視聴したインタビュー動画をもとに、コミュニケーションについてそれぞれの思いや意見を議論しました。

患者さんに「ご家族に今日の話をどのように話しますか？」と問いかけることで患者さんの理解度を把握するとの白井医師の話や、「医療者は情報を伝えたがるが、聴くことも重要なスキルである」との永井さんからの話などが印象に残りました。参加者からも大きな反響があり、PART 3を待ち望む声も多く聞かれました。

文／多田

活動報告はこちら

https://www.cancernet.jp/online230129

チャリティバイク・ライドイベント
「2023 C2C4C Japan」今年も開催！

C2C4C（Continent 2 Continent 4 Cancer）は、ブリストル マイヤーズ スクイブが主催するチャリティバイク（自転車）・ライドイベントです。がんで亡くなった方やがんと闘う患者さんを想いながら、世界中の有志の社員が自転車で長距離走行します。2014年に米国で始まり、2016年には欧州、2021年には日本、そして昨年からラテンアメリカでスタートしました。本イベントを通じて、これまでがん研究のため集まった寄付金は1,400万ドル以上にのぼります。

日本開催3回目となる今年は、9月後半から3週間にわたり、病気と闘う患者さんへの想いを胸に、約70名の社員が日本各地をリレー形式で走り抜けます。ライドイベントのほか、10月21日まで社員やその家族などを対象に募金活動を行います。この募金と会社からの寄付金を合わせて、認定NPO法人キャンサーネットジャパンに支援金として届けられます。昨年は募金活動で集まった約460万円と会社からの寄付金を合わせて総額約1,800万円が同法人に支援金として届けられました。昨年以上の貢献ができるよう、今年も社員一丸となって取り組んでいきます。

C2C4Cやチャリティイベントを通じて、私たちはこれからもがんと闘う患者さんやがん研究のための支援を続けます。C2C4Cにかける想い・取り組みにご賛同いただける方の温かいご支援をお待ちしています。

詳細はこちら

https://congrant.com/project/cnjdonation/6434

Bristol Myers Squibb™
ブリストル マイヤーズ スクイブ

2023 CONTINENT 2 CONTINENT 4 CANCER Japan

乳がん体験者コーディネーター（BEC）養成講座

第18期全体発表・修了式が行われました。

5月20日(土)東京ウィメンズプラザにて、第18期乳がん体験者コーディネーター（BEC）養成講座の全体発表・修了式が行われ、この日新たに26名のCNJ認定乳がん体験者コーディネーターが誕生しました。

この全体発表・修了式は、それぞれがBEC養成講座の前期・後期を通じて学んだことを発表する場です。発表時間は4～5分。発表にあたり、パワーポイント資料を準備する方、自身の話のみで勝負をする方など、それぞれが一番伝えたい方法で、また、自分自身の言葉で、プレゼンテーションに臨みました。発表が終わると、ひとりずつ、すべての課程を修了したことを証明する認定証が手渡されます。皆さん笑顔で受け取っていました。

上：参加者との記念撮影　下：開会の様子

またこの全体発表は自分の発表以外にも、他の人の発表を聞く場にもなります。自身とはまた違う考えを知ることで、お互いの刺激になったのではないでしょうか。終了後には18期生同士でつながるため、連絡先の交換などを行っていました。

この日参加したのは18期生だけではありません。他の期の認定者も応援に駆け付けてくださいました。自身の活動の紹介を行ったり、最後には応援メッセージもいただいたりと、期を超えた交流の場となりました。最後は参加者全員で記念撮影。無事この日を終えることができました。

認定者の活動状況はこちらからご覧いただけます。

https://www.cancernet.jp/training/beccin-activity

※2023年5月現在 本名で活動していて、情報公開をご了承いただいた方の一部のご紹介です。

第19期募集開始しました！

2023年9月には乳がん体験者コーディネーター（BEC）養成講座第19期が開講されます。

e-learningを使った全20講義の視聴とレポート提出、また修了試験から構成される【前期】と、前期で学習した知識を活用するための実践的少人数学習プログラムの【後期】で構成され、2007年に第1期が開講してから今年で第19回目となります。乳がんに関する信頼性の高い医療情報にアクセスし、提供できる能力を習得する養成講座です。

BEC養成講座受講者の多くは乳がん体験者ですが、そのほかにも患者家族や患者支援をされている方など幅広く受講することができます。自身の治療のためや、患者支援活動のために知識を得たい方、医療施設やヘルスケア関連企業等に勤務する方、またご家族が患者さんをサポートするためなど、受講される目的は様々です。修了された方はBEC認定者として、全国で活動されています。皆様の申込みをお待ちしております。

【各種割引】9月30日までに申し込まれた方は、早割が適用され前期受講料が9,900円引きとなります。岩手県、山形県、富山県、島根県にお住まいの方は特別割引料金【いちばん星割引】もありますので、詳細はウェブサイトをご覧ください。

文／淺葉

がん情報ステーション
がん患者向けアロマテラピー講座再開

コロナ禍でお休みしていたがん患者向けアロマテラピー講座を5月より再開いたしました。

初回は6名の方が参加し、デトックスアロマというテーマでアロマソルトを作りました。

参加者からは「いろいろな香を試すことができてよかった」「アロマ単体の香とブレンドした時の香の違いに驚いた」「毎月テーマがあって系統だって学ぶことができるのがよい」などの感想をいただきました。

アロマ講師の荒木さんは「約4年ぶりの開催で、初めは少し緊張しましたが、参加者の方とおしゃべりしていくうちにだんだんリラックスしてきました。がんという病を抱え、辛いときもあるかもしれませんが、同じ境遇の人たちと話をしながらアロマで癒してもらえればと思います。」と話されました。アロマテラピー講座の後、CNJのオフィスも心地よい香りにつつまれました。

上：東京事務所での講座の様子

文／藤原

【オンライン】「卵巣がんと ともに歩む ～治療、アピアランスケアの理解を深める～」開催報告

5月23日（火）、オンラインセミナー「卵巣がんとともに歩む～治療、アピアランスケアの理解を深める～」をアストラゼネカ株式会社と共催で開催いたしました。

当日は200名以上の方に視聴いただきました。最初に本橋卓先生（東京女子医科大学婦人科）が患者に合わせた治療とは何かについて、病院の選び方や最善の治療について日々診療にあたっている医療者の視点から話されました。

次に藤間勝子先生（国立がん研究センター中央病院／アピアランス支援センター センター長）がアピアランスケアについてお話をされました。アピアランスケアは、がん患者さんがきれいになるお手伝いだけでなく、実際は社会的な問題、例えば外見の変化による社会や仕事のなかでの人間関係や立場の変化などに困っている方も多く、そういった視点からのアプローチも必要とおっしゃっていたのがとても印象的でした。

右から本橋卓先生、藤間勝子先生、吉田ゆりさん、増田美加さん

後半は卵巣がん経験者でもある吉田ゆりさん（がんと働く応援団 代表理事）を迎え、増田美加さん（女性医療ジャーナリスト）をファシリテーターに、トークセッションが行われました。トークセッションは、アストラゼネカ株式会社が卵巣がん患者さんに行ったアンケートをもとに、登壇者の皆さんにお話を伺っていきました。吉田さんはご自身の経験から、わからないことがあったらわからないと医療者に伝えていい、また自分から情報を集めるリテラシーも大切だと話されました。アピアランスについても、ご自身が行った工夫や視点の変換を紹介され、視聴者の皆様の参考になったのではないかと思います。

登壇者の皆様の患者さんに寄り添ったことば、柔らかい話し方により、とても温かい気持ちになるセミナーとなりました。

文／淺葉

活動報告はこちら

https://www.cancernet.jp/online230523

湘南鎌倉総合病院にてピアサポーターによるがんサロンスタート

ピア（Peer）とは、仲間、同等という意味の英語です。ピアサポートは、同じような境遇やよく似た体験をもつ者どうしが助け合うことを意味します。

今年4月より湘南鎌倉総合病院にて、ピアサポーターによるがんサロンが新たにスタートしました。毎月第2金曜日の13時～15時に行われます。

CNJにおいては、「かながわボランタリー活動推進基金21協働事業負担金」により、2010年7月から「がん体験者による、がん患者・家族のためのピアサポート事業」を開始、本事業自体は2014年3月に終了しましたが、現在では、引き続き、いくつかの病院や自治体がCNJと連携し、CNJ認定の乳がん体験者コーディネーター（BEC）やがん情報ナビゲーター（CIN）のがん体験者によるピアサポート業務が行われています。藤沢市民病院、相模原市に加え、このたび湘南鎌倉総合病院でのがんサロンが始まり、さらに、コロナの影響で休止されていた大和市立病院でのピアサポート事業も6月より再開されました。

本年3月に閣議決定された第4期がん対策推進基本計画では、「がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す」ことを目標に、患者やその家族等の多様な悩みに対応できるよう、相談支援の一層の充実を謳っています。同じような体験を持つピアサポーターによる相談支援や情報提供の場、患者同士が体験を共有できる場が重要だと認識されながらも、「患者体験調査」（国立がん研究センター、2018）でピアサポーターを知っていると回答したがん患者は27・3％にとどまり、まだまだその認知度は高くないという課題があげられました。

それを踏まえ、第4期がん対策推進基本計画では、「拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築」や、「がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組み」を検討すると掲げられており、今後、ますますピアサポーターが求められ、その果たす役割の重要性はさらに高まっていくと考えられます。がん患者さんやご家族等がピアサポーターに相談しやすい環境がより整ってくることが期待されます。

文／多田

詳細はこちら

https://www.cancernet.jp/peersupport

【オンライン】みんなでみつける、ひとりひとりにあわせた「がん治療」開催報告

2月の「希少がん啓発月間」に際し、2月27日（月）にがん個別化治療啓発セミナー「みんなでみつける、ひとりひとりにあわせた『がん治療』」を、バイエル薬品株式会社、キャンサーネットジャパンの共催にて、オンラインで開催しました。本セミナーは、遺伝子情報から、一人ひとりに適した治療法を見つけることができる「ひとりひとりにあわせたがん治療」をテーマにお届けし、当日は247名の方々にご視聴いただきました。

ゲストに、国立がん研究センター東病院の内藤陽一先生、大腸がんサバイバーの矢作隆さんと小児がん患者さんのご家族である榮島佳子さん、ご家族ががん闘病経験を持つお笑いタレント兼俳優のアキラ100%さんをお迎えしました。

冒頭に、内藤先生がご登壇され、一人ひとりの遺伝子に合わせた治療を行う、がんの個別化治療の重要性と最新情報についての基調講演が行われました。次に、矢作さん、榮島さんから、納得した治療を受けるために行った主治医とのコミュニケーションについて、それぞれご自身の体験に基づいたお話をうかがいました。

その後、内藤先生と、お父様が肺がんの闘病経験を持つアキラ100%さんのトークセッションが行われ、アキラ100%さんは、お父様の闘病時にがん個別化医療について知っていれば、がん遺伝子検査を検討していただろうと話されました。

最後に、内藤先生から、医師に相談する際には、自分の価値観を大切にし、選択肢を整理しながら、繰り返し相談することがポイントであるとの話がありました。治療を決めるのは患者さんご自身であるため、納得して治療を受けるためにも医師と良好なコミュニケーションをとることが大事であると話が締めくくられました。

文／多田

上：左から榮島佳子さん、内藤陽一先生、アキラ100%さん、矢作隆さん

右下写真：内藤先生とアキラ100%さんのトークセッションの様子

活動報告はこちら

https://www.cancernet.jp/online230227

8月1日（火）より申込開始 CNJがんナビゲーター（CCN）認定試験

CNJがんナビゲーター（CCN）認定試験は、今年で8回目を迎えます。

インターネットを使用して情報を収集することが一般的となりつつある今、がんに関わる人々にとって「科学的根拠に基づく正しいがん医療情報」を得ることはとても重要です。本認定試験は、医療情報とがんに伴う情報をその場で検索しながら解答していくことで、がんに関する信頼性の高い情報にアクセスし、正しく理解するスキルがあるかどうかを確認する試験として実施しています。

インターネットがあれば場所を問わず、スマートフォンやタブレットからも受験可能です。合格された方には後日認定証を送付し、認定期間は3年間、更新制度はありません。

2023年度の試験は8月1日（火）より申し込みを開始します。申し込み締め切りは10月20日（金）の17時まで、試験期間は11月10日（金）15時から11月12日（日）15時までです。暗記力を問うテストではありません。皆様の挑戦をお待ちしております。

文／濱中

詳細はこちら

https://www.cancernet.jp/training/ccn

試験問題のサンプル ※2022年試験問題より

Q1 次の選択肢のうち最も適切なものを一つ選択し数字で回答せよ。「乳がんの術後薬物療法の適応を持つものは、どれか。」

①カペシタビン　②アベマシクリブ
③パルボシクリブ　④オラパリブ

Q2 正しいものを選択せよ。「お酒を飲むとすぐに顔が赤くなる人が、毎日多量にお酒を飲み続けると、咽頭がんになりやすい。」

1：○　2：×

（正解：Q1：②　|　Q2：1）

患者・市民のための
膵がん診療ガイド 2023年版
日本膵臓学会 膵癌診療ガイドライン改訂委員会 編
正しい情報を、患者さん・ご家族そして広く市民の方々に！
最新情報、便利な用語集・薬剤一覧を盛り込んで全面的に改訂。
診断直後や治療中など、さまざまな場面で生じる疑問にお答えしています。
B5判 252頁 定価2,640円（本体2,400円+税10%）
ISBN978-4-307-20460-6
金原出版 https://www.kanehara-shuppan.co.jp/

「特定健診をみやこめっせで受けよう！」ブース出展報告

3月4日（土）一般社団法人京都工場保健会主催「みやこめっせ（京都市勧業館）」の特定健診の会場にてCNJのブースを出展しました。会場受付では受診者全員（約680名）にCNJが作成している子宮頸がん啓発リーフレットが配布され、健診の待ち時間にご覧いただきました。開催後のアンケートでは、リーフレットが参考になったとの声を多数頂戴し、子宮頸がんのことを正しく知っていただくとても良い機会となりました。また、ブースでは啓発グッズの販売や、チラシの配布を行い、お立ち寄りいただいた受診者の方よりご自身やご家族、ご友人のがんの体験談や、ご質問などもお伺いでき、私たちスタッフにとっても、大変有意義な時間となりました。

皆さまからは心のこもった募金も沢山頂戴いたしました。今後の活動に大切に使わせていただきます。ご協力いただきました皆さまに心から御礼申し上げます。

文／水野

上から：
ブースの様子
啓発グッズの販売

「あいおぷらすチャリティーコンサート」ブース出展報告

3月30日（木）にNPO法人あいおぷらす、ピンクリボンふじさわ主催にて「あいおぷらすチャリティーコンサート～音楽で愛を繋ごう～ONE LOVE FUJISAWA」が藤沢市民会館大ホールで行われ、CNJはブースを出展しました。

来場者に各がん種の啓発グッズやもっと知ってほしいシリーズ冊子の紹介を行い、あわせて、新たに制作したCNJの乳がんの取り組みをまとめたパンフレットを配布しました。歌手の麻倉未稀さんをはじめとする演者の方々が織りなす音楽を聴きに、1300人以上収容のホールは満席で、CNJのブースにもたくさんの方が訪れました。ブースに乳がんのしこりを触って確認できる模型を置いたところ、多くの方に試していただくことができ、ご自身の胸でも定期的にチェックいただくように案内しました。啓発グッズの各がん種のバッジをご購入くださった方々、募金をしてくださった方々、温かいご支援をありがとうございました。

文／多田

上：CNJ ブースの様子

上：来場者が模型をつかって乳がんのしこりを確認する様子

ティール&ホワイトリボンプロジェクト啓発活動へのご寄付

RTB MOTORCYCLE feat.ROLL THE BONES立花靖様より、モーターサイクルのイベント「神戸ニューオーダーチョッパーショー」「BLUE SKY HEAVEN」を通して募金やグッズによる売上、271,008円をティール&ホワイトリボンプロジェクトにご寄付いただきました。バイクと同じくらい子宮頸がん啓発活動に対しても熱い想いをお持ちの立花さん。イベント時には専用のブースを設置され、2021年より継続してご寄付いただいています。ご賛同いただいた参加者の皆様、ご協力いただいたスタッフの皆様、飲料をご提供下さったメーカー様をはじめ、たくさんの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

CNJでは、皆様からいただいたご寄付により、子宮頸がん啓発リーフレットの刷新を予定しています。4月から9価HPVワクチンの定期接種が始まったこともあり、20歳からの検診のこととあわせて、啓発リーフレットで正しい情報をお届けします。

文／橋本

上：スタッフの皆さんと左より立花靖さん、スタッフの皆さん
右：たくさんのカスタムバイクやパーツに囲まれての感謝状贈呈

世界一、感動できる企業へ。

処方箋がなくても毎日来たくなる薬局

私達は、地域の人々に愛され、信頼され、喜ばれる存在として社会に貢献し、皆様の健康をサポートする、選ばれる企業を目指します。

palhonest.co.jp

株式会社 パル・オネスト

埼玉県富士見市東みずほ台 1-9-4

「JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2023」ブース出展報告

6月4日（日）公益財団法人日本対がん協会主催「JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2023」が開催され、国立がん研究センター築地キャンパスの会場にて、CNJのブースを出展しました。イベントはハイブリッドで開催されていましたが、メイン会場でのプログラム視聴だけでなく、出展ブースへもたくさんの方にお立ちよりいただきました。

ブースでは、活動を紹介するだけでなく、各種がんの啓発ピンバッジやグッズを販売。レモネードスタンドジャパンの応援アンバサダーである「レモン&シュガー」の作家である、あいざわだいきさんとのコラボレーション企画は大盛況でした。なお、本企画の収益34,300円は全額、あいざわだいきさんよりレモネードスタンドジャパンへ寄付されました。お立ちよりいただいた皆様、ご協力いただいたあいざわだいきさんへ心よりお礼申し上げます。

チャリティイラストオーダー

レモンちゃんとシュガーくんにご自身やペットを一緒に描くなど、思い思いのイラストを描いてもらいました。出来上がったイラストはデータでお渡しし、SNSのアイコンなどに早速使用する方もいらっしゃいました。満員御礼で描けなかった方もいるほど大好評でした。あいざわさんは各地で個展などを開催している他、CNJとの企画もまた実施したいと思います。

ガチャを回して小児がん支援

販売価格550円～2,420円の商品が入ったカプセルガチャを1回300円で設置しました。レモン&シュガーのデザイングッズには缶バッジやタオルハンカチ、大当たりはキャラクターのぬいぐるみが入っており、大人が夢中になる瞬間でした。

CNJの紹介やグッズ販売

CNJのことを知らない人だけではなく、既に活動を知る方にも立ち寄っていただきました。久しぶりの再会だったり、オンラインでしか顔を合わせていなかった方とようやくリアルで会えたことを喜び合ったり、出展ブースのあちこちで笑い声があり、活気に満ち溢れており、「リアル」の大切さを改めて感じる時間でした。

文／池田

レモネードスタンド2022年度活動報告

2022年度の小児・AYA世代のがん患者支援のレモネードスタンド開催は17件で、寄付総額は999,967円となりました。新型コロナウイルス（COVID-19）による影響も残る中、開催及び寄付を頂戴し心より感謝申し上げます。

多くの方にレモネードスタンドをご開催いただきましたが、中でも、以前より活動を続けている方からのご寄付も多く頂戴しました。社会貢献活動の一環としてレモネードスタンドを開催される企業もありました。2020年より販売を開始したレモネードスタンドジャパン応援アンバサダー「レモン&シュガー」のグッズも引き続き販売中です。さまざまなアイテムをご購入いただいておりますが、中でも一番人気のランチトートは老若男女問わず使いやすいサイズです。グッズは売上の一部が寄付となり、小児・AYA世代のがん患者支援へ活用されます。

今まで以上にレモネードスタンド活動が活発になってくることを願い、小児・AYA世代のがん患者支援を始め、レモネードスタンド開催のサポートも続けてまいります。引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。

「小児がん・AYA世代のためのレモネードスタンド」第5次助成報告

全国で開催されたレモネードスタンドで集まった募金・企業からの寄付を財源とし、2022年度は第5次助成として「NPO法人日本小児がん研究グループ（CCG）」「一般社団法人日本小児血液・がん学会」の2団体に助成、報告書をウェブサイトで公開しています。助成先は広く公募しており、次期助成金募集は決定し次第ウェブサイトで公開いたします。

文／濱中

レモネードスタンドジャパン応援アンバサダー
「レモン&シュガー」

https://
www.lemonadestand.jp/
goods

2022年度（4/1時点）レモネードスタンドご報告

総数：33件（寄付のみ：16件／開催数：17件）
寄付額：¥955,737円

レモネードスタンドグッズ売上：¥93,030円
売り上げから仕入れ値を引いた寄付分：¥44,230円

レモネードスタンドジャパン
2022年度収入計
¥999,967円

脳腫瘍の子供たちへ最新の遺伝子検査を！皆さまからのご寄付をお願いします

患者が最適な治療を受けるためには、正しい診断を受けることが大前提です。医学の急速な進歩により、小児脳腫瘍の最新の診断のためには多くの遺伝子検査が必要となりました。しかし、今の日本の保険診療では、小児脳腫瘍で必要な遺伝子検査をほとんど受けることができません。小児脳腫瘍の患者数がとても少ないため、遺伝子検査の承認が遅れているからです。

この遅れを埋めるため、日本小児がん研究グループ（JCCG）に所属する有志の医師により、小児脳腫瘍の遺伝子検査は「中央遺伝子診断」として行われており、検査費用の多くは、その医師たちの限られた研究費で賄われているのが現状です。

しかし、ここ数年で、小児脳腫瘍の中央遺伝子診断が急増し、加えて、一部の小児脳腫瘍では、「メチル化アレイ」という高価な遺伝子検査が有効であることがわかってきました。そのため、公的な研究費では賄いきれず、深刻な問題になっています。

そこで、高価なメチル化アレイを含む中央遺伝子診断を継続して行うことができるよう、日本小児がん研究グループ（JCCG）脳腫瘍委員会により「小児脳腫瘍メチル化中央診断プロジェクト」が立ち上げられました。CNJはそのプロジェクトに賛同し、一人でも多くの脳腫瘍を抱える子供たちが、必要なメチル化アレイの検査を受け、適切な治療を受けることができるように、保険診療が実現するまでの間、一般から広くご寄付を募っています。みなさまからの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

なお、いただいたご寄付は、この寄付募集活動の運営費を除き、すべてメチル化アレイの解析費用に充てます。キャンサーネットジャパンは東京都より認定NPOとして認可されています。ご寄付いただいた方は「寄付金控除」または「損金算入」をすることができます。

文／多田

詳細・ご支援はこちらから

https://congrant.com/project/cnjdonation/5614

武田薬品工業チャリティウォークによるご寄付

1月中旬から約1か月にわたって武田薬品工業株式会社にて企画・実施されたチャリティウォークを通して、CNJにご寄付をいただきました。武田薬品工業株式会社のJapan Pharma Business Unit／Japan Oncology Business Unit所属で、CNJの活動にご賛同くださった従業員47名が、チャリティウォークに参加、寄付募集サイトのコングラントを通し、CNJへ参加費が寄付されました。加えて、参加者の方々の期間内に計測された累計歩数に応じた金額である78,042円が武田薬品工業株式会社より寄付されました。

参加いただきました皆様からのご寄付は、CNJの活動に大切に使わせていただきます。ご支援をありがとうございました。

文／多田

上：武田薬品工業株式会社からの寄付目録贈呈

Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、
輝かしい未来に貢献するために、
グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、
革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、
常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、
社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp

Takeda

2022年度プロジェクトのご報告

**NPO法人キャンサーネットジャパンは、これからも、科学的根拠に基づくがん医療情報を
あらゆる方法で発信し続け、がんサバイバーの声を広く社会に届けることで、がんになっても、
生きがいをもてる社会の実現に向け、精進し続けて参ります。**

活動カテゴリ	プロジェクト	内　容	時　期	場　所	対　象
普及啓発	Japan Cancer Forum	2日で56のがんに関する講義・プログラムを実施	8月	Web	一般・患者・家族等
	血液がんフォーラム	2日で27の血液がんに関する講義・プログラムを実施	11月	Web	一般・患者・家族等
	MBS Jump Over Cancer ちゃやまちキャンサーフォーラム	乳がん、血液がんに関する講義・プログラムを実施（MBS毎日放送共催）	11月	Web	一般・患者・家族等
	大腸がん啓発 ブルーリボンキャンペーン	セミナー開催（武田薬品工業株式会社共催）	12月	Web	一般・患者・家族等
		特設Webサイト運営・メルマガ	通年	Web	一般・患者・家族等
		特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
		活動に賛同する医師アンバサダー	通年	47都道府県	医師ら92名
		啓発グッズの作成・販売	通年	Web／ブース	一般・患者・家族等
	胃がん（消化器がん）疾患治療啓発キャンペーン	啓発グッズの販売	通年	Web／ブース	一般・患者・家族等
		特設Webサイト運営	通年	Web	患者・家族等
	前立腺がん啓発	セミナー開催協力	11月	東京	患者・家族等
	子宮頸がん啓発 ティール＆ホワイトリボンプロジェクト	啓発リーフレットの配布	通年	Web／全国／ブース	一般・患者・家族等
		特設Webサイト運営	通年	Web	一般・患者・家族等
		啓発グッズの作成・販売	通年	Web／ブース	一般・患者・家族等
	乳がん啓発	セミナー開催（アストラゼネカ株式会社共催 日本イーライリリー株式会社共催）	10、11月	Web	患者・家族等
		啓発グッズの販売	通年	Web／ブース	一般・患者・家族等
	卵巣がん啓発	セミナー開催（武田薬品工業株式会社共催）	5月	Web	一般・患者・家族等
	婦人科がん	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	小児がん啓発	ゴールドリボンナイター	9月	東京	一般・患者・家族等
		特設Webサイト運営	通年	Web	一般・患者・家族等
		啓発グッズの販売	通年	Web／ブース	一般・患者・家族等
	その他がんに関する啓発	セミナー開催（バイエル薬品株式会社共催：がん個別化治療）	2月	Web	一般・患者・家族等
	がんのセクシュアリティ支援事業（休眠預金助成）	Webサイトでの情報発信 個別アプリ運営 LINEスタンプ作成・販売	通年	Web	一般・患者・家族等
		小冊子配布	通年	全国	医療従事者・一般・患者・家族等
		セミナー開催	1月	東京・Web	医療従事者
		ワークショップ開催	3月	Web	医療従事者

(期間：2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日)

活動カテゴリ	プロジェクト	内　容	時　期	場　所	対　象
普及啓発	がんと栄養	Web サイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等
	がんと生活	Web サイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等
	医療者向け講座など	グリーフケアプレ講座開催	5 月	Web	医療従事者
		セミナー開催協力 (患者と医師の関係)	1 月	Web	医療従事者・ 患者アドボケート
		動画配信 (CML 治療環境向上プロジェクト)	通年	Web	薬剤師
	血液がん	特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	多発性骨髄腫	特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	造血幹細胞移植	特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	急性リンパ性白血病	特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	小児脳腫瘍	特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
		寄付サイト運営	通年	Web	一般・患者・家族等
	悪性黒色腫：メラノーマ	特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	キャンサーチャンネル	Web 配信、SNS による拡散	通年	Web	一般・患者・家族等
	もっと知ってほしいシリーズ冊子	全 37 冊公開・配布 新規発行 1、改訂 3	通年	Web/ 全国	患者・家族等
	株式会社電通の有志、 株式会社資生堂との共同プロジェクト LAVENDER RING	MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES、 高校生アイディアフェス、写真展	7、8、2 月	愛知・Web・ 神奈川	一般・患者・家族等
	機関誌	機関誌冊子作成・発刊	夏、冬	Web/ 全国	CNJ 支援者ら
	各がん種 (すい臓がん、肺がん、希少がん)	Web サイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等
	SNS	22 種 Facebook /Instagram / Twitter YouTube	通年	Web	一般・患者・家族等
養成講座	CCN： CNJ がんナビゲーター認定試験	Web 試験	11 月	Web	一般・患者・家族
	BEC： 乳がん体験者コーディネーター養成講座	Web-Learning 講座＋対面講習	9 ～ 5 月	Web・ 東京・大阪	乳がん患者・患者家族
草の根啓発活動	がん体験者ピアサポート	ピアサポーター業務委託	通年	藤沢市民病院ほか 神奈川県内 2 施設	患者・家族等
	がん情報ステーション	対面でのサポート	コロナの影響 により中止	東京・大阪	患者・家族等
	Over Cancer Together	ワークショップ形式の スピーチ研修開催	6 月	Web・東京	患者・家族等
	男性乳がん啓発	交流会実施	8、3 月	Web/ 東京	患者・家族等
	レモネードスタンド	レモネードスタンドの実施支援 新古ウィッグプレゼント	通年	全国	一般・患者・家族等
	ブース出展	みやこめっせ特定健診ブース出展	3 月	京都	一般
企業協働	かつらのデイリース	提携サロンにてスタイリング・提供	通年	全国	患者
	ウィッグな帽子	提携サロンにてスタイリング・提供	通年	全国	患者
企業に向けた事業 その他	患者向けアンケート実施、社内向け研修支援				

CancerNet Japan

2022年度 サポーターリスト

特定非営利活動法人（以下 NPO 法人）キャンサーネットジャパンの活動は、
私どものミッションとビジョンに賛同を頂いた企業様・団体様、個人様の寄付、及び事業収益により行なわれています。
以下のリストは、NPO 法人キャンサーネットジャパンに寄付、ならびに事業支援を頂いている企業様・団体様・個人様です。

Supporter サポーター企業

RTB MOTORCYCLE
アクトメッド株式会社
旭化成株式会社
アストラゼネカ株式会社
アッヴィ合同会社
アドビ株式会社
アムジェン株式会社
イーキンジャパン株式会社
イルミナ株式会社
インサイト・バイオサイエンシズ・ジャパン合同会社
ウィルメディカルコミュニケーション株式会社
エコロシティ株式会社
MSD 株式会社
オイシックス・ラ・大地株式会社
小野薬品工業株式会社
カーディフ生命保険株式会社
金原出版株式会社
株式会社インテージヘルスケア
株式会社 mct
株式会社コルボ
株式会社千
株式会社ツムラ
株式会社電通
株式会社東京義髪整形
株式会社ナレッジワイヤ
株式会社バーソン・コーン＆ウルフ・ジャパン
株式会社バリューブックス
株式会社日立保険サービス
株式会社ヤクルト球団
株式会社ユーコム
京都醸造株式会社
国際ライフサイエンス株式会社
3H クリニカルトライアル株式会社
武田薬品工業株式会社
テルモ株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本セルヴィエ株式会社
ハースト婦人画報社
バイエル薬品株式会社
ファイザー株式会社
富士製薬工業株式会社
ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社
MICIN 少額短期保険株式会社
明治安田生命保険相互会社
メルクバイオファーマ株式会社
ヤンセンファーマ株式会社

※掲載順：五十音順

Nonprofit 非営利組織サポーター

石川県立中央病院
一般社団法人エンパワーチルドレン
一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン
一般社団法人食道がんサバイバーズシェアリングス
一般社団法人日本小児血液・がん学会
一般社団法人日本皮膚悪性腫瘍学会
医療法人社団ナイズ（キャップスクリニック）
NPO 法人エンパワリング ブレストキャンサー /E-BeC
NPO 法人腺友倶楽部
NPO 法人中皮腫サポートキャラバン隊
NPO 法人日本小児がん研究グループ
NPO 法人婦人科悪性腫瘍研究機構
大阪市立総合医療センター
慶應義塾大学病院
公益財団法人前立腺研究財団
相模原市
SHARE Cancer Support org.
下関市健康推進課
日本がん免疫学会
認定 NPO 法人希望の会
はまっこ (多発性骨髄腫患者・家族の交流会)
藤沢市民病院

※掲載順：五十音順

Lemonade レモネードスタンド開催・サポーター

LEMONA DESIGN 株式会社
勝又朴乃香・川合環華・武井うづ
三浦 倫和
株式会社エンプレス
小籔 千豊
宮城県仙台二華高等学校 英語部
城戸崎建築研究室
三好市社会福祉協議会
神奈川県立相模原中等教育学校
大辻茶菓店
KISHIWADA
みぃみのレモネードスタンド
こどもスマイル kimama
ジャパン・フード・パートナーズ
株式会社ウメソー　うめパ
ANA ホリデイ・インリゾート
信濃大町くろよん
ガールスカウト千葉県第 91 団・HAPPY LEMONADE

※掲載順不同

Grant 助成金

公益財団法人正力厚生会【がん患者団体助成】
ファイザー株式会社【公募型：医学教育プロジェクト】
公益財団法人日本対がん協会の協力による休眠預金活用事業

※掲載順不同

Media メディアサポーター

MBS 毎日放送
メディアサイト株式会社

※掲載順不同

Supporter 個人サポーター

赤井畑美津子
赤澤杏子
明石美緒
明石みき
赤塚誠二
秋田尚人
秋山絵里子
秋山紗弥子
秋山裕司
朝倉健児
麻倉未稀
阿蘇敏之
穴澤嘉雄
阿部一也
阿部純平
安部猛
阿部智大
安部典一
阿部祐児
新井太英
荒井宏行
荒川竜平
荒木逸生
荒木隆志
阿波奈々子
安藤健介
安藤友治
イーディーアラスター
飯山愛
五十嵐圭史
五十嵐裕司
池田アンナ
池田真由美
池田結花
石川友一
石川雄一
石田順也
石田穣治
石塚祐将
石原俊一
石原卓
板倉優斗
市毛祐
一志将人
櫟本由美
井出剛生
井出直希
伊藤江利奈
伊東大介
伊藤寛明
伊東ゆかり
井上智恵子
伊庭伸彦
今井隆史
居村和志
井村佐をり
伊従千絵美
岩崎竜也
岩崎直子
岩瀬龍彦
岩瀬美奈子
岩田崇
上瀧大
上田隆
上田雅貴
植田瑞穂
上野信
宇佐美大
馬越江平
梅澤厚
梅渓智範
嬉野真平
江川俊介
江越洋二
江崎芳弘
江藤茜
遠藤昭夫
遠藤亘
王 帝
大崎毅
大澤亮介
大竹真史
太田朋子
大林徹
大藤哲平
大森由子
岡崎達也
岡田知子
岡本真揮
岡山文彰
小川省一郎
小川晋太朗
小川洋子
沖峰之
奥所祐一郎
奥平晃充
奥野啓介
小田栄一郎
織田隆雄
越智雪乃
小野美知子
尾前武徳
Omelchenko Igor
カービー理恵
Garufi Vincent
角谷千恵子
角野誉史
影山朋子
樫原ももこ
柏木一公
片野賢太
方波見孝一
片平智保
片山智史
勝藤文恵
勝部裕司
加藤かおる
加藤航介
加藤由紀子
加登瑠璃子
金子一美
金子裕和
鎌田舞美
上鵜瀬麻有
上代文彦
亀ヶ谷翔大
河井灯
河合健太郎
河上晃一郎
川口毅
河田達哉
河田美恵子
河野仁郎
河野博隆
川畠和巳
川村建夫
神吉厚志
菊地浩行
木口大輔
喜多見陽子
北村明日香
北村和恵
木戸寛
木内一博
木下玲子
木原康太
金元来
木村翔
木村朋広
金野俊之
久保田幸江
窪田満
久米由紀
倉田慎吾
クレーン麻美
黒木ももこ
黒田伸之
古泉亘
小泉博之
古賀眞美
小崎詩織
小鹿学
小平孝司
古谷順良
小堤弘行
後藤晃
後藤太郎
後藤良介
小橋勇利
小畑篤史
小林直希
小林直樹
小林誠之
小松京子
小松はる
齋藤悠人
酒出友紀
寒河江まゆ美
榊原康行
坂田俊仁
坂本和重
相良美波
佐川陽平
佐々木彰
佐々木聡子
佐々木穂
佐々木靖子
笹崎雄介
貞方典久
佐藤明子
佐藤明宏
佐藤薫
佐藤豪
佐藤順哉
佐藤友彦
佐藤昌樹
佐藤ゆう子
佐藤由佳
佐藤リュウタ
澤田幸恵
塩田初美
柴田裕樹
柴原毎久
島崎一義
島田直弥
島藤諭完
清水拓
志村良太
白川光政
新屋直子
末吉敏治
菅原沙織
菅原大輔
杉山愛
杉山逸子
菅生香子
鈴木千恵
鈴木俊昭
鈴木智子
鈴木陽香
鈴木美保子
鈴木義徳
砂野知子
須山貴之
関憲二
関田隆行
銭田康伸
五月女達也
宗史啓
曽我史郎
園田誠二
高久和之
高田邦博
髙橋伊久麻
高橋健
高橋春子
高橋龍翔
髙橋亮
高柳耕
滝義行
田口倫彰
田口直美
武石友哉
竹内一宏
武田晃司
武田高徳
竹谷健
武田史子
竹綱宏行
竹之内博文
武鑓豊
辰巳美紀
田中健幸
棚治隆史
谷合弘枝
谷口秀樹
田村伊織
田村政利
千葉海理
長野博樹
土田昌志
壷井莉奈
坪田智明
釣谷克樹
鶴田浩三
鶴町和道
出原昌生子
寺田廉
寺本一仁
藤健一郎
堂前直美
堂免秀平
銅山尊之
徳永和子
友寄絵美
鳥居克彦
鳥越万紀夫
内藤佳子
直江佐穂里
長岡良
中川恭子
中川千鶴子
中川英正
中澤真紀
中島明子
中島慎太郎
中島嘉孝
中田尚志
長野正督
中野浩子
中村将悟
中山寿之
並木泰淳
納谷祐輝
楢府貴幸
成田裕之
西口輝
西澤美穂子
西野圭三
西野剛
西山毅
野入洋子
野嵜容平
野田侑子
野村真司
埜本秀信
波賀野一磨
波賀野麻絵
橋浦由記子
橋本真明
蓮見彰一
長谷川薫
長谷川友寛
八田隆弘
服部留里
浜野祥平
浜本康夫
早川孝之
早川富與
早川義朗
原純一
原田亜弥
原田幸治
原田雅義
Pant Chandra
東大祐
東山朋弘
日野杉良輔
日野もえ子
百名伸之
日吉美枝
平岡大作
平手秀典
平野健二
比留川博久
廣川洋
廣田修一
福島紘子
福嶋勝和
福田伸二
福田隆一
福中雄介
福原麻希
藤澤一浩
藤本彰子
藤山航
二神幹子
古市健二
古川賢司
古野清紘
古屋敏恵
部坂修二
星野晃宏
星山鎮秀
堀田倫之
堀誉志
堀之内岳大
堀之内七海
本堂大祐
前田敏宏
前田利文
前馬直樹
牧慶太
間崎元太
正辻晃教
松井祐一郎
松岡洋祐
松田豪俊
松田裕里
松永真樹
松原香織
松原由紀貴
真鍋裕
馬目亜紀子
三上純平
三澤圭介
水越有紀
水野道明
溝口亮
南麻美
南善典
嶺岸航作
宮崎徹
宮里陽一
宮田佳世子
宮田泰彦
宮哲雄
三好功一
三好友美
村岡将也
村上誠
村田沙也香
村山久美子
村山民愛
森景太郎
森田将仁
森晴美
矢口渓
安井央
安田和代
矢田英貴
八束大介
柳澤隆良
柳澤博一
柳原大輝
矢野昇平
矢野健
山口彩奈
山口勝己
山口元気
山口輝臣
山口佑樹
山崎夏維
山崎宏之
山崎文義
山﨑賀映
山地宏和
山田郁子
山田健一
山田健介
山田泰彦
山本永子
山本淳史
山本恒久
行定菜都美
行田沙絵子
湯木野洋介
横山真理子
吉岡拓耶
吉岡美恵子
Yoshikawa Akiko
吉澤友里
吉田由華
吉田亮司
吉村寛子
米澤麻美
萬弘隆
渡辺厚こ
渡辺隆雄
渡邉貴夫
渡辺直子
渡辺摩周
渡辺祐治

※掲載順：五十音順・敬称略※掲載のご許可をいただいている方のみのご紹介です。

海外がん医療 TOPICS

早期乳がんのホルモン療法と妊娠

早期乳がんの治療を終え、再発防止を目的として受けるホルモン療法の期間は 5 年から 10 年と長期にわたります。若年患者の場合は、この間に妊娠を望む人も多いでしょう。2022 年 12 月に米国で開催されたサンアントニオ乳がんシンポジウム（SABCS）では、そうした人たちにとって心強い研究結果が発表されました。

北米、欧州、アジアなど日本を含む 20 カ国で実施された POSITIVE 国際試験で、妊娠を試みるためにホルモン療法を最長 2 年間中断しても、短期的な再発リスクを高めることはないとの結果が示されたのです。

この試験には、妊娠を希望する 43 歳未満の 518 人の女性が参加しました。参加者はⅠからⅢ期のホルモン受容体（HR）陽性乳がんで手術を受け、タモキシフェンなどのホルモン療法を 18 カ月以上受けていました。ホルモン療法はホルモン受容体陽性乳がんの成長を遅らせたり、停止させたりします。その一方で、体内でホルモンを生産する能力を抑制するため妊娠しにくくなる可能性もあることから、妊娠を望む若い女性はホルモン療法に躊躇しがちでした。

試験期間中に 497 人の妊娠状況を追跡したところ、74% にあたる 368 人が少なくとも 1 回の妊娠を経験し、うち 317 人が少なくとも 1 回出産。合計で 365 人の新生児が誕生しました。この妊娠率と出産率は一般の人々と同等かそれ以上だったので、ホルモン療法を受けていたことによる妊娠への影響は示されなかったと言えます。

また初回治療から3年後までに、がんを再発したのは参加者の約 9% でした。この再発率は、ホルモン療法の中断を伴わない同等の試験に参加した閉経前女性とほぼ同じでした。つまり、POSITIVE 試験の参加者のようにホルモン療法を最長 2 年まで一時的に中断しても、それによって再発率リスクが短期的に上がることはないことを示しています。

この試験結果は、早期の HR 陽性乳がん患者とその家族が、「ホルモン療法か、妊娠か」で悩むのではなく、安心して両方を選ぶことを後押ししてくれます。この試験の共同責任者の医師も、あくまでもホルモン療法の中断であって、中止ではないことを強調しています。

情報提供／海外がん医療情報リファレンス

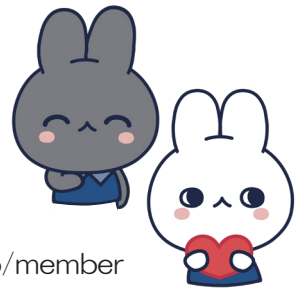
私たちは、ミッションとビジョンを持って、様々な事業や活動を通じ「日本のがん医療」に貢献致します。
NPO法人キャンサーネットジャパンの事業や活動にご賛同頂ける方々（個人・法人）は、
是非、賛助会員としてご協力をお願いいたします。

キャンサーネットジャパンの賛助会員になりませんか？

年2回 機関誌発送

どなたでも お申込みOK!

詳しくは



＊賛助会員の入会金・年会費は寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。https://www.cancernet.jp/member

笑顔につながる明日を、共に。

この社会の誰もがその人らしく
笑顔ある日々を過ごせることを目指して。

People. Passion. Possibilities.

アッヴィ合同会社
〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目1番21号
msb Tamachi 田町ステーションタワーS
https://www.abbvie.co.jp/

abbvie

CNJ Speakers 28 号（2023 年 Summer）

編集発行 / 認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン　発行日 / 2023 年 7 月
〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2 階　https://www.cancernet.jp
電話 / 03-5840-6072　FAX / 03-5840-6073　E-mail / info@cancernet.jp

※次号は、Winter-2024 年 1 月発行になります。